

この度、産経新聞社・「関西のインフラ強化を進める会」（近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部）の主催、国土交通省近畿地方整備局・近畿運輸局の後援によりシンポジウムを開催しましたのでご報告いたします。

本シンポジウムでは、「南海トラフ巨大地震への備えと国土強靱化の取り組み」をテーマに、国土強靱化基本計画に基づくインフラ整備等のハード対策と情報発信や訓練等のソフト対策の推進に向けて、有識者と関係者による特別講演、パネルディスカッションを行い、オールジャパンの取り組みのあり方等について考えました。

- ① 日 時：2025年9月22日(月) 13:30～17:00
② 会 場：エルセラーンホール（大阪市北区堂島）
③ 主 催：産経新聞社
 関西のインフラ強化を進める会
 （近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部）
④ 参 加：約350名

◆ 特別講演Ⅰ 福和 伸夫 氏

名古屋大学 名誉教授／あいち・なごや強靱化共創センター長／
南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 主査

勝負は地震前に決まるとし、事前防災として、徹底的な耐震化・強靱化を強調。国難回避のために産官学民の総力結集とそれぞれの急所の洗い出しの重要性を主張。

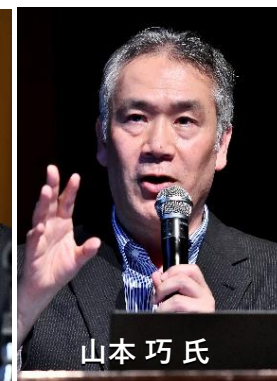
◆ 特別講演Ⅱ 山本 巧 氏

内閣官房 内閣審議官 兼 国土強靱化推進室 次長

第1次国土強靱化実施中期計画について、防災インフラの整備・管理、交通・通信・エネルギーを含むライフラインの強靱化等、推進が特に必要となる施策について説明。



福和 伸夫 氏



山本 巧 氏

◆ パネルディスカッション

「南海トラフ巨大地震への備えと国土強靱化への取り組み」をテーマに、これまでの教訓と現行の備え、発災後の迅速な復旧・復興に向けた取組、オールジャパンの取組と連携のあり方等について意見交換を行った。



岡嶋 信行 氏



齋藤 博之 氏



小林 潔司 委員長



一青 妙 氏



馬場 美智子 氏

◀岡嶋氏 災害時には目に見える形で支えあうことが重要。自助、共助、公助の一翼を担っていきたい。

◀齋藤氏 東日本大震災で伝えられた「備えの超越」という教訓をもとに、住民に寄り添った対応を目指す。

◀馬場氏 段階的・総合的な視点で優先順位を考え、被害者や災害弱者の視点でインフラ整備・強靱化の必要性を考えることが重要ではないかと考える。

◀一青氏 台湾と日本の支援関係のように、「まさかの時に役立ってくれる人が真の友」という台湾の理念を広げることが国際貢献や震災の備えにつながる。

◀小林委員長 人口が減っていく中で、いかに地域力を高め、備えを強化していくかが問われている。

プログラム	
13:30～13:40	開会挨拶 谷本 光司 一般社団法人近畿建設協会 理事長
13:40～14:30	特別講演「南海トラフ地震対策と防災庁」 福和 伸夫 氏 名古屋大学 名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 主査
14:30～15:10	特別講演「国土強靱化に関する最近の動向について」 山本 巧 氏 内閣官房 内閣審議官 兼 国土強靱化推進室 次長
15:10～15:30	休 憩
15:30～17:00	パネルディスカッション「南海トラフ巨大地震への備えと国土強靱化の取り組み」 コーディネーター 小林 潔司 氏 関西のインフラ強化を進める会 委員長／ 京都大学経営管理大学院 特任教授／土木学会 元会長 パネリスト（※五十音順） 岡嶋 信行 氏 南海電気鉄道 株式会社 代表取締役社長 兼 COO 齋藤 博之 氏 国土交通省 近畿地方整備局長 馬場 美智子 氏 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 一青 妙 氏 作家・女優／台南市 親善大使／石川県 観光大使 ※プログラムについては変更の可能性があります。



地域力高め備え強化を

関西の産学官で構成する「関西のインフラ強化を進める会」（委員長・小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授）の第16回シンポジウムが22日、大阪市内で開かれた。「南海トラフ巨大地震への備えと国土強靱化の取り組み」をテーマに特別講演やパネルディスカッションが行われた。

シンポジウムには約350人が出席。冒頭、近畿建設協会の谷本光司理事長が「切迫する南海トラフ地震への対応が喫緊の課題だ。本日は産学官民の各立場で問題意識を高め、行動してもらえなっかげになればうれしい」と話した。

続いて福和伸夫名古屋大学名誉教授と山本巧内閣官房内閣審議官兼国土強靱化推進室次長が特別講演を行った。「南海トラフ地震対策と防災庁」をテーマに講演した福和氏は「南海トラフ地震は地震前に勝負が決まる」と強調。そのためにも被害の激減が不可欠とし、▽徹底的な耐震化と強靱化▽危険を避ける土地利用▽同時被災を避ける過密密消一の徹底を挙げた。特に基礎杭の耐震化を含め「民間施設の耐震強化は待ったなし」との考えを示した。防災庁については「それぞれの立場で総力

と期待した。

山本氏は「国土強靱化に関する最近の動向をテーマに講演。これまでの3か年緊急対策、5か年加速化対策について「それぞれの対策は効果を発揮している」と評価をしつつ、6月に関する」と評定された第1次国土強靱化実施中期計画のポイントや主要施策を解説した。

パネルディスカッションでは、岡嶋信行南海電鉄社長、齋藤博



「一層求められる」と指摘した。岡嶋氏は高梁橋耐震補強や落橋防止などの対策を紹介。過去の災害から得た教訓から「災害時には行政との連携、交通モード・会社の枠を超えた物資や部材の共有、共通化が重要になる」と語った。

地震大国の日本と台湾の架け橋となる文化交流に力を注ぐ一青氏は、震災を通して絆と友情を深めてきた両国の関係を紹介。「まさかの友は真の友」をキーワードに挙げ、「この理念を地震が多い東アジア各国にも広げ、支え合うことで国際貢献にもつながるだろう」と話した。

馬場氏は発災後の「暮らしを守る」ことに着目。▽孤立集落の支援▽集合住宅の在宅避難者の支援▽広域避難者の受け入れの3点を挙げ、「必要なインフラ整備・強靱化を含め、省庁や行政組織の縦割りではなく、横断的、総合的な視点で考えるべきだ」と指摘した。

小林委員長は「災害は忘れる暇もなくやってくる。いかに地域力を高め、備えを強化していくかが問われている。将来に希望が持てる形で、地域のアイデアやエネルギーを次の世代に引き継いでいく仕組みも必要だろう」と締めくくった。

齋藤局長は防災インフラや道路ネットワーク整備の現状を紹介した後、発災時の対応ではテックフォース（緊急災害対策派遣隊）の役割に触れ「激甚化する災害に備え、対応力を強化していく」とした。また東日本大震災での教訓なども踏まえ「住民の気持ちに寄り添った対応が

の近畿地方整備局長、馬場美智子兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授、作家・俳優で石川県観光大使や台湾・台南市親善大使を務める一青妙氏が登壇。小林委員長がコーディネーターを務め、迅速な復旧・復興や巨大災害への備えなどを議論した。

同席のスピーチは、

- ・自治体や、他県・他府県と連携する
- ・民間企業と連携し、復旧に向けた取り組みについて
- ・防災対策に携わるボランティアの役割や活動について

パネルディスカッション



日刊建設工業新聞
(2025年9月26日)

「南海トラフ対策
勝負は発生前に」

大阪でシンポ

「南海トラフ巨大地震への備えと国土強靱化の取り組み」をテーマにしたシンポジウム「関西のインフラ強化を進めるために」（産経新聞社、関西のインフラ強化を進める会共催）が22日、大阪市北区のエルセラインホールで開催された。

名古屋大の福和伸夫名誉教授は特別講演で「南海トラフ地震対策の勝負は地震前に決まる」と強調した。

パネルディスカッションでは、同会の小林潔司委員長がコーディネーターを務め、南海電気鉄道の岡嶋信行社長兼COO（最高執行責任者）、国土交通省近畿地方整備局の斎藤博之局長、兵庫県立大大学院減災復興政策研究科の馬場美智子教授、作家・女優のひととたえ妙氏が登壇。防災や減災について意見を交わした。

調写真。内閣官房国土強靱化推進室の山本巧次長が国土強靱化に関する動向を紹介した。

パネルディスカッションでは、同会的小林潔司委員長がコーディネーターを務め、南海電気鉄道の岡嶋信行社長兼COO（最高執行責任者）、国土交通省近畿地方整備局の斎藤博之局長、兵庫県立大大学院減災復興政策研究科の馬場美智子教授、作家・女優の一青妙氏が登壇。防災や減災について意見を交わし



【開催予告】 第15回シンポジウム
日時：2025年10月31日(金) (予定)
会場： インテックス大阪 6号館 (予定)